日々の暮らし　　日時：令和２年４月８日　場所：東京都 → 水窪

新生活

今年度から地元浜松市に戻ってきました。しばらくは地域おこし協力隊（山里いきいき応援隊）として天竜区の水窪町で生活します。

地元春野にも帰りやすく、長野や愛知にもアクセスしやすい好立地。まちなかは坂や細道が多く、趣があります。今はイベントや地域の集まりができる状況ではなく、しょっぱなから難しい状況ですが、地道にやっていきます。

東京でお世話になったみなさん、本当に本当にありがとうございました。

東京時代、仕事で歩き回った千代田区界隈

通勤に使った東京メトロ霞ケ関駅

日々の暮らし　日時：令和２年４月16日　場所：天竜 月

月まで３キロ

長年天竜区に住んでいながら今まで知りませんでした。住所が「月」なんてかっこいいですね。

日々の暮らし　日時：令和２年４月22日　場所：春野 田河内

実家

昔ながらの生活です。

わらび干し

薪ボイラー

薪

日々の暮らし　　日時：令和２年４月24日　場所：水窪 常光寺山

常光寺山道整備

NPO山に生きる会の常光寺山登山道（上村コース）整備の活動にお邪魔しました。分岐や道跡がわかりづらい場所など、迷いやすい箇所に目印となるピンクテープを巻き、分岐の看板が古くなっている箇所は、新しいものに付け替えました。

常光寺登山といえば家老平の登山道口から入る山住コースがお手軽でわかりやすいですが、上村コースも、バイケイソウやトリカブトの群生、アカヤシオが見られ、少し寄り道をすればかつて修験者が修行したといわれる行者場が見られるなど、魅力が詰まっています。

当日、天気は快晴で山頂からの景色が見事でした。

案内板を書く

行者場

常光神社鳥居

山頂

アカヤシオ

日々の暮らし　　日時：令和２年５月７日　場所：水窪 押沢

お茶の季節

　水窪町内の茶畑で北遠の５月の風物詩である茶摘みのお手伝いをしました。具体的には、写真の①～④のような作業を行いました。

①茶畑の畝に沿ってお茶刈り機を使って収穫
②機械が届かない部分は、ぼうら片手に手摘み
③茶葉を涼しい場所で広げ、古い葉や枝を取り除く
④茶葉を茶工場へ搬入

　収穫の茶葉はすぐに乾燥して傷んでしまうため、迅速に茶工場に持ち込む必要があります。また、茶工場で一度に取り扱える茶葉の量には、下限と上限があるため、天気が良い日に一気に収穫すればいいというものでもありません。
　天気と時間との勝負に加え、その日の収穫量にも配慮しなければならない茶摘みの作業は、とても繊細な仕事だと感じました。

①

②

③

④

日々の暮らし　　日時：令和２年５月11日　場所：水窪 門桁

門桁散歩

門桁地区を歩いてきました。実家に帰省する際に通りかかることもあるのですが、歩くのは初めてでした。水窪では唯一の気多川流域の集落ということもあり、春野町出身の私としては、親近感を感じました。

門桁分校跡は校舎は残っていませんが、グラウンドとプールが残っていました。畑には特徴的な案山子（カカシ）が立っていて目を引かれました。

← 門桁分校跡

門桁分校プール →

日々の暮らし　　日時：令和２年５月24日　場所：水窪 中ノ尾根山

中ノ尾根山登山道整備

天竜森林管理署水窪森林事務所のグリーンサポートスタッフの国有林パトロールと中ノ尾根山2,296m）の登山道整備の活動に同行しました。

看板の設置や目印のピンクテープ巻きなどを行いました。ツガやトウヒなど高地でしかみられない樹種が優占していて新鮮でした。

国有林グリーンサポートスタッフは長きにわたって水窪の山を見てきた方々が担っており、いかにも「山の精鋭」という感じで格好良かったです。

日々の暮らし　　日時：令和２年５月30日　場所：水窪町奥領家神原

粟の植え付け

NPOこいねみさくぼの粟のポット苗の畑への移植作業と直まき苗の草取りに駆け付けました。これからの成長が楽しみです。

日々の暮らし　　日時：令和２年６月９日　場所：水窪 向市場

梅収穫作業

町内農家さんの梅収穫のお手伝いをしてきました。枝をゆすって実を落とすので、梅の雨を全身に受けまくりました。ご褒美にいただいた梅は早速梅シロップにしました。ありがたいです。

あと何を思ったか杉玉（試作品第一号）を作ってみました。杉の葉はほぼ無限にある実家の資源を利用しました。写真は形を整える前ですが、なかなか雅な感じです。苔玉しかりマリモしかりヤドリギしかり、緑の丸いものって何かいいですね。

日々の暮らし　　日時：令和２年６月21日　場所：水窪 黒法師岳

黒法師岳登山道整備

国有林のグリーンサポートスタッフの国有林パトロールと黒法師岳（2,067m）の登山道整備にNPO山に生きる会のメンバーとともに同行しました。黒法師岳は山頂付近の稜線からの景色が見事で登り甲斐のある山です。

山に生きる会が「ヤレヤレ平（だいら）」「弁当転がし」などクスリと笑える案内板を随所に設置しているので、是非注目しながら歩いてみてください！

日々の暮らし　　日時：令和２年６月23日　場所：水窪 神原

小学校地域サポーター打合せ

水窪小学校には「地域サポーター」という制度があり、地元の方々が地域学習のサポートを担っています。活動の内容は、山歩き、農作業体験、町探検など多岐にわたります。活動に参加することになりましたので、ちゃっかり小学生に混じって地域のことを学んでいきたいと思います。

日々の暮らし　　日時：令和２年６月23日　場所：水窪 神原

　本日、町内農家のじゃがた掘りと茶畑の縦刈り（畝の形を整えるための作業）の支援に行ってきました。地域の方々の手伝いを通して山間地域で生きるために必要な技術を幅広く経験できるのが、今の仕事をしていて本当に得していると思うところです。
　さて、その畑作業の合間にスベリヒユが大量に生えているのを見つけました。スベリヒユはどこでも見られる量産性雑草なので写真を見れば「コレか！」とわかる人が多いかもしれません。
　昔読んだ小説に食べられると紹介されていたのを思い出し、試しに料理してみました。肉厚のモロヘイヤのような雰囲気で普通にアリでした。

スベリヒユ

スベリヒユパスタ

日々の暮らし　　日時：令和２年７月１日　場所：水窪

　文化会館でJR飯田線の企画展示が行われており、かつての写真や駅名板など貴重な資料を見ることができます。その中で「カネト－炎のアイヌ魂」という本が紹介されていました。飯田線の前身である三信鉄道の測量士として、天竜峡谷沿いの鉄道路線の建設に尽力した川村カネト氏の奮闘ぶりが描かれています。

　川村カネトは北海道旭川のアイヌの生まれで、当時蒸気機関車がひかれたばかりの北海道で鉄道会社の測量士として働いていましたが、その能力と勇敢さを高く評価され、三信鉄道の難所である天竜峡谷沿い鉄道建設にアイヌ測量隊のリーダーとしてはるばる北海道から招かれることになります。

　飯田線の建設にアイヌの人たちが関わっていたというのがまず驚きでしたが、それ以上に当時和人からいわれのない差別を受けていた彼らが、その勇敢さを買われこの天竜川の奥地で鉄道路線を引くという偉業を成し遂げたというのは、とてつもなくドラマがある話だと感じました。

　何より自分にとって思い入れのある北海道と飯田線につながりがあったことを知り嬉しく思いました。これは後世に残したいな、と思わせてくれる史実でした。

※　隊員だより７月号でも特集しています。

日々の暮らし　　日時：令和２年７月６日　場所：水窪

土砂災害と水窪川の増水にご注意を

先日より降り続いている雨の影響で水窪川が著しく増水しています。また、天竜から水窪に向かう国道上でも、沢水の越流や小規模冠水が確認されているようです。町民の方々、これから移動される方々はくれぐれもご注意ください。

協働センターが本日15：00より文化会館に避難所を開設しております。

日々の暮らし　　日時：令和２年７月15日　場所：天竜 横山

霧の横山地区

　浜北に出かけた帰り、横山地区を通ったら霧が出ていて良い雰囲気だったので少し散歩をしました。
　霧が出ていると普段の景色が急に妖しげに見えたり幻想的に見えたりしますね。ただの林と町明かりの風景が巨大な猫が町ににらみをきかせているようにも見えたので撮影してみました。
　全然関係ないですが、天竜に「伊砂」という地区があるのですが、「いすか」と読むのを初めて知りました。難読すぎます。。
　ちなみに春野町にも「砂川」と書いて「いさがわ」と読む地区があります。「砂」は難読になりがちなんでしょうか。

日々の暮らし　　日時：令和２年８月４日　場所：水窪 麻布山ほか

山レポ（麻布山～戸中山～バラ谷）

国有林GSS（グリーンサポートスタッフ）とNPO山に生きる会の登山道整備・国有林パトロールに同行してきました。

今回は麻布山～戸中山～バラ谷方面です。このような活動には何度も同行させていただいているのですが、GSSのお二人も山に生きる会のメンバーの方も長きにわたって水窪の山を見てきた地域の山のスペシャリストなので、毎回山の地理情報や昔の山仕事の話など、興味深い話を色々教えていただけて本当に勉強になります。こういった活動を通して、少しでも地元周辺の山の知識を引き継いでいければと思います。

当日は林内に霧がかかっていてとても幻想的でした。人の手が長くかかっていない森林であるため、奇形樹や巨木が多く見られてとても興味深かったです。

日々の暮らし　　日時：令和２年８月９・10日　場所：春野 田河内

山と川

休日は実家に帰省することが多いです。小さいころから兄とよくこうして沢に繰り出しては、魚を捕まえたり探検まがいのことをしたりしていました。

ついでに地元の歴史に興味がある人くらいしか知らないであろう樽山城址にも久しぶりに行ってみました。ヒルさえいなければ夏の沢歩きは格段に快適なんですが。。

実家

じいさまの仕事部屋、ばあさまたちの井戸端会議、夏バテの愛犬、風景に溶け込まないプール。

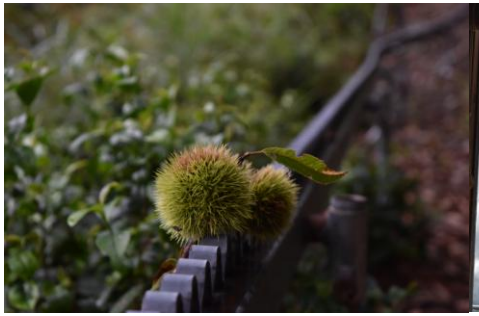
プールはもともとお隣にある養魚場のヤマメの稚魚を大きくなるまで育成するための池だったのですが、最近はもっぱら親戚の子供の遊び場になっています。
にしてもこの色はきつすぎでは　笑。

日々の暮らし　　日時：令和２年９月６日　場所：水窪 大沢

農家民宿ほつむら

　大沢地区にある農家民宿「ほつむら」に泊まってきました。大沢地区は標高700mを超える水窪町でもかなりの奥地の集落で、「ほつむら」はこの大沢地区出身のご主人が定年後にＵターンで地元に戻り満を持して始めた民宿です。
　その景色もさることながら、手先が器用なご主人の木工作品、昔の農機具や地域の写真などの展示品がみられるのも魅力です。星が見える手作りのお風呂場も素晴らしいです。柴犬と三頭のヤギもかわいいです。電波が届かなかったりアクセスが悪いのもかえって味があります。

※　一日一組限定。かまどや囲炉裏を使った自炊が基本です。



日々の暮らし　　日時：令和２年９月８日　場所：水窪

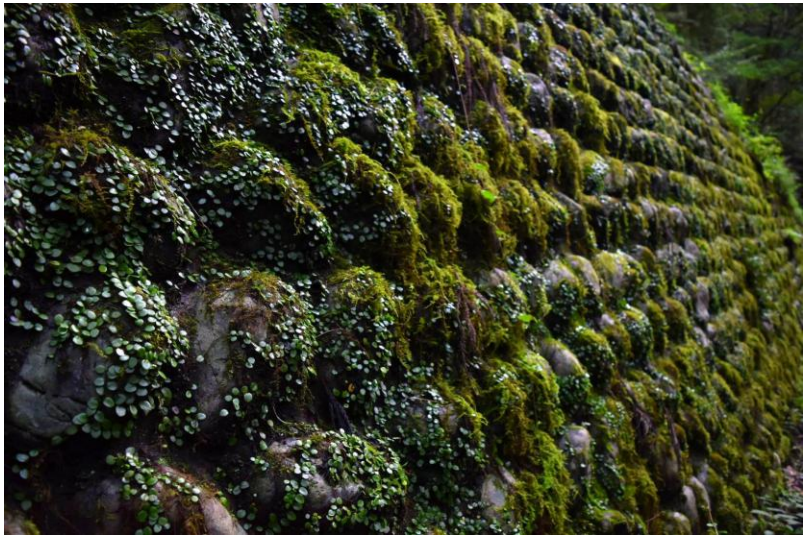
中学生 ～ 社会人の話を聞く会 ～

　東京都の中学校で教員をしている知り合いから依頼をいただき、中学2年生に向けて地域おこし協力隊の仕事の話や今までの経験についてオンラインで話をしてきました。
　いまの状況では外で職業体験がなかなかできないので、オンラインで開催することにしたそうです。普通の職業体験とは違い、全国の色々な職業の人の話が聞けて面白いだろうなと思うと同時に、講師の調整など先生方の苦労も大変なものがあるだろうなと感じました。
　果たして講師の一人が自分で良かったのか、とは思いますが、これを期に中学生たちが少しでも農山村での仕事や暮らしについて興味を持ってくれたならうれしいです。

日々の暮らし　日時：令和２年９月14日　場所：春野 田河内

秋めいてきました

　だいぶ秋めいてきて、稲の収穫時期を迎えつつありますね。さて、田舎だと写真みたいな凹凸の擁壁を良くみかけますが、昔はこれでボルダリングみたいな楽しみ方を良くしていました。多分ここらへんの小学生はみんな経験があるのでは。。
見かけると今でも登りたい衝動にかられます　笑



日々の暮らし　　日時：令和２年９月　場所：水窪

栃の実が落ちる季節になりました

　栃は葉が大きく花も特徴的で存在感のある樹木ですが、水窪町では昔から栃の実を貴重な食料として重宝してきました。「天日干し」「皮むき」「アク抜き」など食べられるようになるまでにかなりの手間を要する栃の実がここまで地域に浸透しているのは、この町が昔から農作物を十分に確保することが難しい環境であったことを物語っているように思えます。水窪町と比べると比較的平地が多い隣町の春野町では、栃の実を採ってきて食べるという文化はあまり浸透していないので面白い違いです。

　水窪町では現在でも複数の製菓屋さんで栃餅や栃大福を食べることができます。優しい甘さと栃の風味がマッチしていてとてもおいしいです。

　水窪にお越しの際は是非お土産に。

日々の暮らし　　日時：令和２年９月22日　場所：春野 田河内

稲刈り

実家で稲刈りを手伝ってきました。

日々の暮らし　　日時：令和２年９月27日　場所：水窪 常光寺山

山散策

　常光寺山を歩いてきました。秋の山は面白く、結局２時間歩いて200mも進みませんでした。今年はブナの当たり年のようで、町内のどの山に行ってもブナの実が絨毯のように落ちていました。

　ウリハダカエデをはじめ、落ち葉の色合いが見事だったので少し拾ってきました。いよいよヒルにも悩まされない季節になってきました。

ホオの実

キノコ

キノコ

ブナの実

日々の暮らし　　日時：令和２年10月14日　場所：水窪・春野

杉玉・センブリ

　杉玉を作ってみました。全然うまくはいかないですが、春や夏の葉よりも今の時期の葉の方がきれいにできることだけはわかりました。
　先日、実家の山でセンブリ（べらぼうに苦い薬草）を見つけました。痩せた切り土斜面などで良くみかけますが、小さいころ祖母と採りに歩いたのを思い出します。

日々の暮らし　　日時：令和２年10月17日　場所：春野 勝坂

春野町：勝坂集落

　春野町の勝坂（かっさか）集落に行ってきました。春野町で一番水窪町に近い集落です。ただし、水窪－勝坂を通る水窪森線は急峻な坂道なので普段ここを通って春野町に行く人はあまり多くはいないと思われます。
　勝坂集落は360年もの歴史がある勝坂神楽が有名です。毎年十月下旬に神楽の舞が行われますが今年は中止とのこと。
　木造の廃校舎と校庭の大イチョウ、苔むした石畳の通学路など「古き良き」をそのまま風景にしたような場所だと感じました。

日々の暮らし　　日時：令和２年10月18日　場所：水窪 門谷

門谷分校

　水窪小学校の先生、地域のサポーターの方々、地域おこし協力隊の先輩隊員と一緒に水窪町の旧門谷分校の整備と視察に行ってきました。門谷分校は昭和45年に廃校になった小学校分校です。

　水窪町にはかつて小中学校合わせて10を超える校舎（分校舎を含む）があったといいます。それだけ奥地の集落にも子供がいたということですね。

　さびれた遊具や今にも崩れそうな校舎、意外ときれいに残っている教科書や机などから、かつての学校生活の面影を感じることができました。

日々の暮らし　　日時：令和２年10月30日　場所：春野 田河内

春野町：寒くなってきました

　つかの間の実家帰省です。軒先には小豆やお茶の実が干してありました。ツチアケビの実がきれいだったので写真を撮ってきました。自分は山に生えているものを実際に見たことはないのですが、探せばほぼ全的にあるようです。こんなのが山に生えていたら不気味な感じもしますが。。

日々の暮らし　　日時：令和２年11月８日　場所：天竜 雲名

天竜雲名：アツミトウフ店

　天竜の雲名にあるアツミトウフ店に寄ってきました。自家製のおいしい豆腐や油揚げを販売するお店で、私の地元の春野町の山奥にも昔から移動販売に来てくれています。豆腐や油揚げに加え、牛乳や卵も持ってきてくれるのでとても助かっています。

　個人的な考えですが、昨今、地方でいわゆる「素敵なお店」として色んな媒体で取り上げられるお店といえば、何か奇抜なことをしていたり俗にいう「インスタ映え」するようなところが多いような気がします。それも地域に光を当てる素晴らしい話題だとは思いますが、目立たなくてもずっと地域に根差しているような、昔ながらの商店とか、学校のすぐ側にある駄菓子屋さんや文房具屋さんとか、そういうお店こそが地域の財産だと思いますし、そういうお店も「映える」ような地域であってほしいな、と私は思います。

春野町：ハチとり

実家帰省した際にちょうど父がハチとりをするということだったので、同行してきました。春野町全域かはわかりませんが、私の実家付近では昔からこの時期になると山の地面に穴を掘って巣を作るクロスズメバチ（通称：カナンバチ、カナンバ）をとってきて食料にしています。

まずカナンバの巣を探すのが大変です。どこの地域でも同じなのかはわかりませんが、うちの場合は、山に何ヵ所か生の魚や鶏肉を置いておいて、それを運ぶハタラキバチの行く末を観察してそれぞれのハチが向かう方向の直線状の交点に当たる付近を目視で探すという鬼のように忍耐力がいる作業で探します。もちろん山の仕事をしている時に偶然見つけることもあるそうです。

そうして探し当てた巣の入り口にハチとり用の煙幕を差し込み、ハチの意識がもうろうとしてきたところを掘り出します。掘り出してきた巣は布の袋に入れ、袋のまま蒸し器に放り込みます。ある程度蒸したら巣を新聞紙やバットに広げ中のハチを手作業で取り出していきます。想像するだけでわかると思いますが、恐ろしく手間がかかります。こうしてようやく食材のかたちになったハチたちは醤油や酒で甘めに煮た後にハチご飯にすることが多いです。ハチご飯の味は、昔からこの面倒な作業が続けられてきたことが納得できるくらいおいしいです。

これは自分のためでもあるのですが、日用雑貨のこしらえ方とか炭焼きの技術とか、魚や小動物の昔ながらの捕まえ方とか、農山村の中でさえも知識がある人がいなくなれば廃れてしまうような習慣や技術の文章化・伝承に一役買えるような仕事もできたら良いな、と思っています。

日々の暮らし　　日時：令和２年11月30日　場所：水窪 山住

山住神社とスギ

山住神社に寄ってきました。秋の大祭と紅葉の時期も終わり穏やかな雰囲気でした。写真は山住神社のご神木のスギとその周辺の山のスギなのですが、とても同じ樹種とは思えませんね。まっすぐ育つから「直ぎ（スギ）」のはずなんですけどね。どうしてこんなに曲がってしまったのか（笑）。

日々の暮らし　　日時：令和２年12月16日　場所：水窪

降雪

今日は一日中雪が降っていました。浜松市で12月にこんなに雪が降るのは珍しいです。既にスタッドレスタイヤにはしていたので色々なところを歩き回ることができました。

最初は青崩峠（信州と遠州の境）から信州側の雪景色を眺めたいと思っていたのですが、積雪があり厳しそうだったので途中で断念。高根城から見る山並みがうっすら雪化粧していてきれいでした。

雪は音を吸収するといいますが、雪が降っているときは本当に周囲から音が消えていると感じることがあります。

しめ縄づくり

地域の方がこども教室で学校帰りの小学生にしめ縄づくりを教えていました。しんしんと降る雪を横目に暖かい室内で昔ながらの文化に触れる年末らしい空間でした。

伝統文化や昔ながらの技術を知っているということは、こういう地域で育った子供たちの強みだと思います。ここで育った子供たちには、こういう引き出しがあるということに自信を持ってほしいな、と感じます。

日々の暮らし　　日時：令和２年12月20日　場所：水窪

水窪民俗資料館

　水窪民俗資料館に行ってきました。最近は土日（９時～16時）しか開館していないのであまり行けていませんでしたが、とても面白いので暇があれば足を運んでいます。

　無料で観覧できますし、かつての生活用具・岩石や地形の展示・古文書などが幅広く設置されていて、昔の文化や産業に興味がある人なら誰でも楽しめると思います。

　養蚕の道具や文化についての展示が多いのが珍しいです。農業分野においても「焼畑」に焦点が当てられているあたりが水窪地域らしいと感じます。

　農山村独自の文化や生活様式を継承していくことは地域内外の両方にとって価値があることだと思いますし、かつての人々の生き方をかえりみることで地域が存続するきっかけをつかめるということも大いにあるんじゃないかな、と思っています。

日々の暮らし　　日時：令和２年12月22日　場所：春野

春野町：春埜杉とか

　和泉平～砂川～大時～花島の山あいの集落を経由して実家の田河内に帰りました。長きにわたった水窪から天竜に下る国道152号の通行止めも一部解除され、ありがたい限りです。

　途中、秋葉神社の下社と春埜山大光寺に寄り道しました。大光寺の春埜杉は推定樹齢1300年、樹高43年、幹回り14mの文句なしの巨木です。

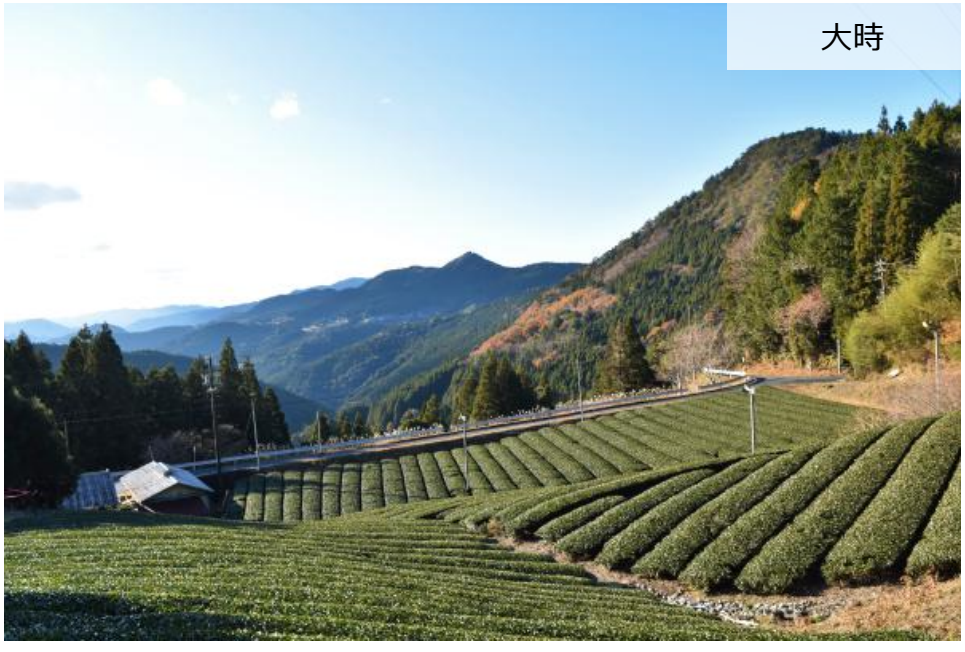
春埜杉

秋葉神社下社

下社参道

大光寺「阿」

大光寺「吽」


大時

日々の暮らし　　日時：令和３年１月３日　場所：春野 田河内

春野町：山歩き

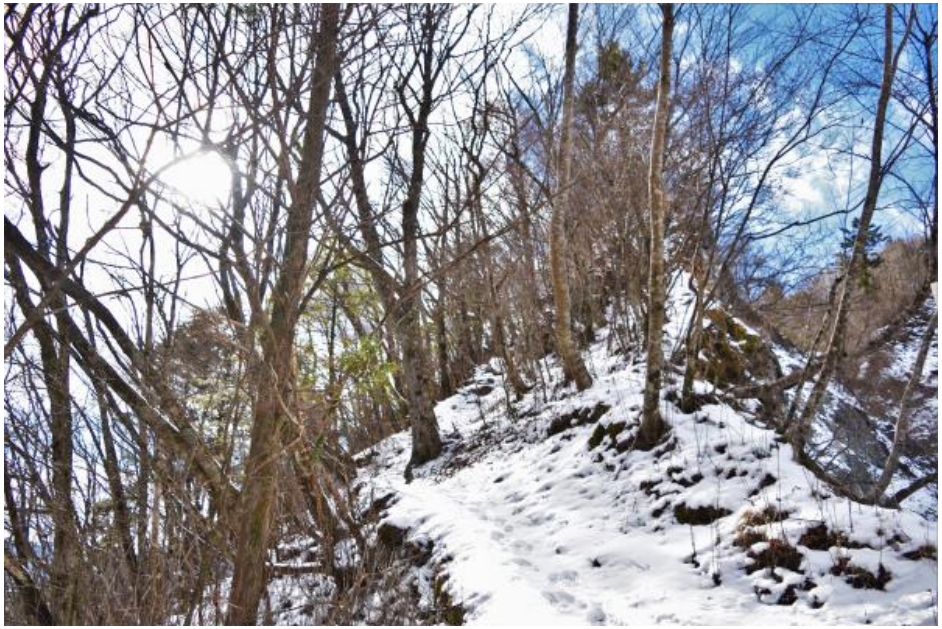
久しぶりに兄に連れだって近所の山と沢を歩いてきました。この沢では流水と小石や砂利の力によって長い時間をかけて岩盤に空けられたポットホール（甌穴：おうけつ）がところどころに見られます。

地元ではこの穴につまった砂利をきれいに掃除すると雨が降るという言い伝えがあります。

日々の暮らし　　日時：令和３年１月９日　場所：水窪 青崩峠

水窪町：峠と氷壁

　積雪の具合を見に青崩峠まで行ってきました。何台か峠の手前の駐車場まで車で上がっている車がありましたが、自分の車では心配だったので足神神社からは歩きでした。
　毎年冬に凍る沢沿いの氷壁も見事でしたし、青崩峠から眺める信州側の山並も雪化粧していてきれいでした。



日々の暮らし　　日時：令和３年１月11日　場所：佐久間

佐久間さんぽ

　水窪町のおとなり、佐久間町に行ってきました。佐久間町は天竜方面に下るときにいつも通り抜けはするのですが、じっくり歩いたことはあまりなかったので良い機会でした。松山公園の展望台から眺める佐久間ダムと佐久間の町並みもきれいでしたし、町歩きも趣深かったです。
　佐久間ダムは左岸が佐久間町、右岸が愛知県豊根村になりますが、どちらの町に行くにも岩盤むき出しのトンネルを抜けることになり、まさに山奥のダムという感じを味わうことができます。日本第９位の高さと第８位の総貯水量を誇るとのことで、石積みの水窪ダムとはまた違っ風格があります。
　帰りは羽ヶ庄の集落を回って水窪に帰ってきましたが、展望台から見下ろす中央構造線の断層谷が見事でした。
　今回は車での移動が主でしたが、幸い水窪－佐久間にはＪＲ飯田線も通っているので、往路は旧道や山道を歩いて帰りは電車で帰ってくるという行程もいいな、と感じました。

松山公園より

原田橋

佐久間ダム近景

羽ヶ庄展望台

佐久間ダム遠景

日々の暮らし　　日時：令和３年１月12日　場所：水窪 山住

冬の山住

午前中のデスクワークののち、山住峠（1,107m）に行ってきました。道路上の積雪もありましたし、あえて河内浦から上がっていく山道（山住古道）を歩いていきました。水窪の町なかは雪が小雨に変わっていたのですが、３合目あたりからみぞれになり、４合目からは雪に変わりました。あまり雪が降りすぎると、このくらいの山道でも危険ですが、今日は温度も比較的高かったですし、林内はほとんど積もっていなかったので、昔の人の冬の峠越えを想像しながら楽しんで歩くことができました。

峠は一面の雪で、10cmくらい積もっていました。浜松市内でこんなに大量の雪を見たのは、自分は小学生の時以来かもしれません。

雪の山住峠

古道入口

日々の暮らし　　日時：令和３年１月15日　場所：龍山

龍山さんぽ

　仕事で龍山町の協働センターに行く機会があったので、協働センター周辺の大嶺地区などを歩いてきました。
　龍山町は2005年に浜松市に合併するまで「龍山村」という自治体名で静岡県最後の「村」でした。
　秋葉ダムの真下に町がある大嶺地区は、護岸の擁壁や目の前にそびえたつダムの存在感が大きく、なかなか他では見られない町並みなのではないかと思います。
　龍山町にはドラゴンママという特産品加工・販売施設やキャンプ場もありますし、天竜区の他地域と同様、歴史的・民俗的な見どころも多そうなのでまたゆっくり歩いて回りたいと思います。

日々の暮らし　　日時：令和３年１月27日　場所：春野

春野さんぽ

　天竜高校春野校舎がある犬居地区、春野中学校がある気田地区を久しぶりに歩いてきました。実家からはだいぶ距離がある地区ですが、中学２年のときに中学校が統合してからは、スクールバスで50分ほどかけて、ここまで通っていました。

　この１年間で春野町の写真もだいぶ撮れたので、ほとんど趣味の世界ではありますが、また春野町の集落の写真や情報をまとめたようなものも作ってみたいな、と思います。（←作りました。）

秋葉神社下社

高校前バス停

仇山：正源寺

ホルモンとラーメンの魚松

白井鐵蔵記念館

宝塚ゆかりの像

ご当地マンホール

春野中学校

日々の暮らし　　日時：令和３年１月31日　場所：天竜

林業インターン

　天竜林業研究会が主催する３日間の林業インターンに参加させていただきました。林業の現場や製材会社を案内していただいたり、市役所の担当者から行政面の話を伺えたりして、リアルな感覚を学べたような気がします。

自身の今後の森林・林業への関わり方についても、実際に林業に携わっている皆さんに相談させていただくことができて、とても貴重な時間になりました。

伐採の現場

間伐が行き届いた森林

フジイチさん

フジイチさん

フジイチさん

フジイチさん

日々の暮らし　　日時：令和３年２月２日　場所：水窪

節分とやいかがし

　124年ぶりに２月２日が節分に当たったようで。夕方に散歩がてら、町の節分の雰囲気を探ってきました。
節分の日には、焼嗅（やいかがし）と言われる、鰯のアタマを樹木の枝葉に刺したものを軒先に飾るという風習が広く行われていることと思います。
　鰯のアタマに刺す樹木は、ヒイラギが一般的ですが、水窪町では、バリバリ（カヤ）が使われます。春野町の実家ではシキミ（香の木）が使われていました。鬼が嫌がるということで、葉がとがっていたり、強いにおいがしたり、焼くと大きい音がする樹木が好まれているとのことです。
　天竜区だけでこれだけ違いがあるということは、全国的にはもっと色々な樹木を使うパターンがありそうですね。

バリバリとイワシ

唐辛子つき

春野：シキミの枝葉

引佐：クロモジ・ミカン

節分の日の夕暮れ

日々の暮らし　　日時：令和３年２月６日　場所：浜松市中区

水窪森林組合ホームページ・森林の仕事ガイダンス

本日、浜松市内で開催された「しずおか森林の仕事ガイダンス」に行ってきました。県内の林業関係者から個別に説明を受けることができ、とても面白かったです。林業関係の仕事へのハードルは意外と高くはないということ、林業事業者の方々も様々な人材を求めているということを実感しました。

このイベントに水窪町森林組合さんが参加するにあたり、地域おこし協力隊の活動の一環として森林組合のホームページの作成に協力させていただきましたので、そちらにも是非ご注目ください。
こういったイベントを機に、林業の門戸が一層大きく開いていくといいな、と思います。

水窪森林組合ホームページ　→

水窪森林組合相談ブース

ホームページ

日々の暮らし　　日時：令和３年２月８日　場所：天竜

春野町隊員の区役所展示

　本日から、天竜区役所の１階展示スペースで、春野町の隊員が地域と活動のＰＲ展示を行うということで、私もご一緒させてもらいました。

地域の伝統的な食べ物や特産品、ハーブなどの植物のサンプル展示や春野町の写真など、情報が満載で、お二人の普段の精力的な活動がうかがえました！私も、ほとんど趣味で作成している、地元春野町の集落や地域の伝説、学校の情報、暮らしの様子などを載せた写真集を置かせてもらいました。

３月中旬まで設置されているようですので、是非、区役所に足を運んだ際には、のぞいてみてください！

日々の暮らし　　日時：令和３年２月11日　場所：水窪 西浦

西浦わらじ作り勉強会

今年は中止になってしまいましたが、西浦地区では、旧暦１月18～19日にかけて西浦田楽という神事を夜通し行っています。このとき、田楽衆が履くためのわらじを作るのですが、このわらじを作る人が今では地域で数人しかいなくなってしまいました。

その技術を引き継ぐために、西浦地区の有志のメンバーでわらじ作りの講習をするようになったそうです。誰でもわかるように、作り方を動画で残したいという要望もあり、今回、私も参加させていただきました。

日々の暮らし　　日時：令和３年２月16日　場所：水窪 神原

わらじ試作

祖父にもコツを教わりながら、縄をなう練習をしました。だいぶコツもつかめて、わらじ作りに必要な二尋（3.5mくらい）の縄を２本なうことができました。

また、自作した縄を使って自宅でわらじを試作してみました。片足だけでしたが、２時間以上かかりました。かつて、水窪の山間地域から水窪の町なかの学校に通っていた子供は、休みの日に一週間履く分のわらじを作っておいたというような話を聞いたことがありますが、その苦労を少しは想像できるようになりました。本を読んだり話を聞いたりしても、なかなかピンとこないですが、実際にやってみると理解が何倍も進むということを実感できました。

日々の暮らし　　日時：令和３年３月６日　場所：水窪 青崩峠

わらじと旧道

ワラジをうまく作ることができたら、いずれ旧道を歩きたいと思っていたのですが、暖かくなってヒルが出てきてからでは遅いので、不格好な試作品で少しだけ歩いてきました。ワラジを履いて外を歩くのは初めてだったので、アクセスがしやすい信州との境の青崩峠付近の旧道を１時間くらい歩きました。

　昔、遠州から信州に向かうときには、この道をワラジを履いて越えたそうなので、想像を膨らませるにはちょうど良い場所でした。靴底が滑らないので、石畳を歩くときは登山靴よりも安定感がありました。長い時間歩いているとわらが圧縮されて薄くなってくるので、少し足の裏が痛かったですが、一時間程度歩く分には全然問題なかったです。
　もし納得できるものができたら今度はもう少し長い距離を歩いてみようかな、と思います。

古道歩き

自作わらじ

峠とわらじ

日々の暮らし　　日時：令和３年３月23日　場所：天竜 二俣

ヤドリギ

　ヤドリギです。天竜二俣を撮ると車からでもよく見えるので前々から気になっていました。成長するときれいな球状になるので観葉植物としてもいいなーと思っていたのですが、なかなか低い位置にはないですし、育てられるものかもよくわからないです。。
　ヤドリギは他の木に寄生して樹上で生活しますが、一方的に養分や水分を奪い取るわけではなく自身でも光合成をするようです。ヨーロッパでは神聖な木でもあるみたいです。

日々の暮らし　　日時：令和３年３月24日　場所：龍山・佐久間

桜

　龍山から水窪に向かう途中に見かけた桜です。
天竜川と採砂の船も相まっていい雰囲気でした。
杉の中に一本だけ生えている山桜も緑に映えますね。

日々の暮らし　　日時：令和３年３月27日　場所：水窪 向市場

地域おこし協力隊の仕事

向市場の「つぶ食いしもと」さんのところでお手伝いをしてきました。手伝いと言いながらも、郷土料理や地域の歴史について話を伺ったり農作業のイロハを教えてもらったりとむしろ勉強をさせていただいています。

活動を通して民間・行政・個人を問わず色んな方から色んな分野の地域で生きていく術を学ぶことができるのが、地域おこし協力隊の役得なところだと毎度思います。ある程度自分の時間もとれるので努力次第で資格や免許取得、諸々の勉強など自己研鑽ができ、その能力を仕事の中で生かすことができるのも良いところです。

とはいえ期限付きの制度ですし、向き不向きも激しいと思うので、誰にでもおすすめできる仕事とは言えないかもしれません。地域は社会の縮図と言っても過言ではないですし、１年ごとに契約更新ができるということをプラスにとらえて大学生が在学中に休学して見識を広げたりするのも全然アリなんじゃないかな、と思ったりします。

自分は来年度もこの仕事を継続するつもりでいますので、今まで学ばせていただいたことを総合的に生かして、多方面にお返しできるように努力していきたいと思います。

春日神社

つぶ食いしもと

じゃがた畑耕うん

日々の暮らし　　日時：令和３年３月30日　場所：水窪 大野・大沢

大野の桜と大沢地区

水窪大野地区の一本桜を見てきました。昨日あたりから満開だそうです。大野のおとなりの大沢地区を散歩していたところ、昨年末に大沢の山奥に移住したばかりの手塚さんに出会いました。

近所で農家民宿を営む地元の方にじゃがたの植え方を教わるとのことで、私も少しだけ同行させていただきました。傾斜が急な畑で、昔ながらの山間の畑作といった感じでした。じゃがたの植え方や収穫の仕方にも急傾斜ならではの方法があるそうです。

手塚さんはこれから畑の整備や自宅の整備を着々と進めていく予定とのことです。足袋を履いた姿がとても様になっていました。移住して間もないにも関わらず、ご近所同士で関わりあっていて、とても良い雰囲気を感じました。

日々の暮らし　　日時：令和３年3月30日　場所：水窪 針間野

針間野集落

水窪町の無人集落を訪ねました。窪の最北で長野との境に位置する草木地区の集落の一つです。標高900～940メートルに位置する高地集落でかつては15戸を数えたそうですが、現在住む人はいません。このあたりでは、かつて家の周囲の畑のことを「カイト」と呼んでいたそうですが、カイトとおぼしき場所はススキで覆われ、もの悲しさを感じました。

オイル缶を軒先に吊るしたものを見つけたのですが、きっとカイトに獣が侵入するのを防ぐために棒などで打ち鳴らしたのだろうな、と当時の生活の光景が浮かんできました。集落のすぐ隣の林には谷へと架線が伸びており、林業が営まれていたこともうかがえました。

人が住まなくなってしまった集落に一人で立つと、どうしても昔の暮らしを想像してしまいます。おそらく当時の人が集落を去る次の年に例年どおり使うはずだった残された薪や藁を見てなんとも言えない気持ちになりました。ただこういうことは、当時の暮らしの苦労を知らない自分が推し量れるようなものではないと思っています。時代の流れでどうすることもできないこともあるでしょうし、集落が存続したとしても集落に住む人の気質だったり暮らし方は形を変えていくものだとも思います。長い目で見ればそれは自然なことで、今までもそれが繰り返されてきたのでしょうが、自分はどうしても今ある暮らしがなるべく続いていってほしいと思ってしまいます。

余談ですが、〇〇ガイトという林地の字や畑地の字は水窪町に限らず私の出身地の春野町でも多く見られます。シモカイトさん、カイトナカさんといった苗字も聞いたことがあったのですが、この「カイト」の意味を知って、初めてそれらの由来がわかってとてもすっきりしました。

日々の暮らし　　日時：令和３年４月８日　場所：水窪 向市場

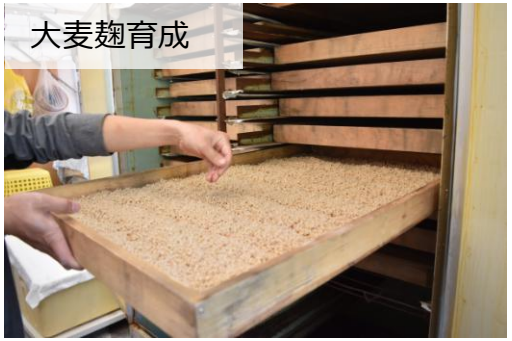
花祭りと地域の食文化

本日４月８日は花まつりです。
お釈迦様が生まれた日であり、水窪ではこの日に「とじくり」と「甘茶」をお供えするのが古くからの習わしです。
今日は郷土料理を扱う「つぶ食いしもと」さん宅に県立農林環境専門職大学の学生と先生が視察に訪れるとのことで、自分はその手伝いと取材をしていたのですが、その際、石本さんが「とじくり」と「甘茶」をごちそうしてくださいました。
とじくりは米とそば粉と大豆を使った団子のような料理で甘く味付けがされています。「大豆は節分でたくさん余る」「ソバは４月を過ぎると風味が落ちてしまう」そうで、とじくりからは、これらの材料を適期に使用する暮らしの知恵も見て取れます。
甘茶は山に生えるガクアジサイの一種の葉を蒸して乾燥させて作るお茶です。名前から甘い風味があるのだろうなと想像してはいたのですが、甘味料が入っているのかと疑ってしまうほどの想像を超える甘さで個人的には今年に入って一番驚いた出来事になったかもしれません。
大学生や先生方と一緒に視察もさせていただき、栃の実の皮のむき方や食べられる状態にするまでの工程を教えていただいたり、大麦の麹づくりの様子を見学させていただいたりしました。
栃を流水にさらすときに使う麻の袋は、何回も布で補修をした跡が見られ、道具を繰り返し大切に使うという意識を感じました。昔の人にとっては「そうしなければ暮らしていけないから」という理由からの当然の行いだったかもしれませんが、繰り返し長く使うことでしか出てこない道具の味のようなものもあると思いますし、自分もそういう道具の使い方をしたいと強く思いました。
こういった地域の食に関する文化には今後も積極的に触れていきたいです。

とじくり・甘茶

栃皮むき器

麻袋


大麦麹育成

日々の暮らし　　日時：令和３年４月11日　場所：水窪 向市場

昔ながらの味噌づくり

　水窪で郷土料理を扱う「つぶ食いしもと」さんに大麦麹を使った昔ながらの味噌づくりの方法を教えていただきました。昔は各家庭で味噌を作っていてそれぞれ味が違ったそうです。

　大麦麹と大豆の味噌づくりの工程は以下のとおり。

①　大麦を蒸して広げ、温度管理を徹底しながら数日寝かす

②　大豆を煮る → 煮た豆をつぶす

③　元の乾いた大豆の量１ｋｇに対して同量の大麦麹と200～300ｇ程度の塩を入れて混ぜる。

④　しっかり混ざったら、底に塩をまいた保存容器に③をたたきつけるようにして徐々に入れていく。ストレス発散になる作業です。

⑤　最後に表面を平らにしてうっすら塩をまいたら完成

　中ぶたをしてその上から重しを乗せたらあとは冷暗所で保存します。

麹を育成する過程や味噌の発酵の過程などについてお話を聞いていると「料理は化学！」と言われるのが納得できます。

①

②

②

③

④

⑤

日々の暮らし　　日時：令和３年４月16日　場所：水窪 兵越峠～青崩峠

良薬口に苦し

　地域の方との登山道整備の最中、キハダの木を見つけました。キハダは皮をはぐと鮮やかな黄色い肌が出てきます。この黄色い部分は非常に苦く、昔から胃薬などとして重宝されてきました。少し舐めてみましたが、数日前に飲んだセンブリ茶並に苦かったです。

日々の暮らし　　日時：令和３年４月18日　場所：水窪 熊伏山

熊伏山と四月の雪

　熊伏山（1653m）に登ってきました。途中で雹が降ってきて山頂付近では雪に変わりました。木の枝からはつららが伸びていました。４月も後半にさしかかろうとしているのに驚きです。

日々の暮らし　　日時：令和３年４月20日　場所：春野 田河内

てん茶

　地元春野町田河内の茶畑です。
「てん茶」というお茶に仕上げるために茶畑に寒冷紗のようなシートをかける作業が始まりました。新芽を傷つけないように慎重にシートをかぶせていく作業はなかなかに大変な仕事です。
　これからしばらくは茶畑での仕事が盛んに行われることになります。例年通りならGW終盤あたりから徐々にお茶刈りも始まっていくことでしょう。

日々の暮らし　　日時：令和３年４月21日　場所：水窪 大沢

隊員交流@ほつむら

周辺地域の隊員とともに水窪の農家民宿「ほつむら」さんにお邪魔してきました。ご主人から地域の話、民宿の話など色々なお話を伺いました。

囲炉裏を囲みながら隊員同士でお互いの活動の相談をすることもでき、とても良い時間になりました。

ほつむら 藤谷さん、佐久間隊員、龍山隊員

日々の暮らし　　日時：令和３年４月23日　場所：水窪 兵越峠～青崩峠

小学生と山歩き

NPO山に生きる会の補助員として水窪小学校３・４年生の山歩きに同行しました。子供たちは年輪の数え方や山での遊び方、安全な山の歩き方など、地域の人を先生にして楽しく学んでいました。

山を歩く子供たちに元気をもらいましたし、山の知識を吸収していく様子を頼もしく感じました。

日々の暮らし　　日時：令和３年４月25日　場所：水窪 青崩峠～飯田市八重河内

遠州～信州古道歩き

地域の方々と一緒に遠州と信州をつなぐかつての街道である秋葉街道（信州街道・塩の道ともいう）を歩いてきました。水窪側から青崩峠～飯田市八重河内の集落跡を通って信州側のふもと（梅の木島）までの道のりです。集落の石垣や日用品類、多くの通行人が利用したであろう茶屋の廃屋などかつての暮らしの面影が色んなものから見てとれました。

移動手段の発達によって簡単に遠くに行けるようになりましたが、それにより一番接点のあった近くの集落はお互いにどんどんなくなっていき、人々の暮らしの距離がかえって離れてしまっていったのは、なんというか、世の中難しくできているところだと思います。ここで生活をしていると、多くの人々がより良い暮らしを求めて暮らしの形を変えていくことで、得ることもあれば失うこともあるということが良く分かります。

関係ないかもしれませんが、映画「もののけ姫」の主人公の言葉で自分が好きな言葉に「くもりなき眼（まなこ）で見定め、決める」というものがあります。実際会社の上司に問いかけられたときにこんな回答をしたら怒られそうですが（笑）、複雑にからみあった正解のない課題への向き合い方の本質を突く言葉なんじゃないかな、と常々感じます。

判の木茶屋跡

判の木茶屋跡

青崩峠

道祖神

松原集落跡

日々の暮らし　　日時：令和３年４月30日ほか　場所：水窪

田んぼ

　水窪町でも徐々に農家さんが田植えを始める時期になってきました。今日は田んぼの代かき（肥料をまいて水をはった田んぼを耕す作業）のお手伝いをしてきました。はじめて経験させてもらったトラクターの運転はとても面白かったですし、裸足で田んぼの中を歩くのも気持ちが良かったです。
　田んぼに水を入れるとその場所の生態系が一日にして様変わりするような感じがして面白いです。水をはった直後からカエルがそこらじゅうで鳴き始めますし、ツバメが巣作りのためにたくさん飛び交うようになります。
　GWにはお茶刈りも盛んに行われると思いますので、町がにわかに賑やかになりそうです。

日々の暮らし　　日時：令和３年５月４日　場所：春野 田河内

お茶刈り

　春野町田河内の実家でお茶刈りの手伝いをしてきました。田河内地区で有機茶を生産している協同組合の茶畑は周囲に民家がない山間の開けた場所にあり、景色がとても良いです。
　基本的には二人刈りの茶刈り機で収穫し、すみっこの刈りきれない部分は手摘みをします。刈る作業はもちろん、収穫した茶葉をかついで斜面を行ったり来たりする作業も体力を使います。

　刈った茶葉はすぐに風通しのよい袋に入れ替え、古い葉や枝の部分が入っていないかを確認します。茶葉にとって乾燥や蒸れは大敵なので、茶工場に持っていく時間を逆算して作業を進める必要があるなど見た目以上に繊細な仕事です。GWは天候が優れなかったのであまり作業が進まなかったようですが、これから徐々にピークを迎えるでしょう。

日々の暮らし　　日時：令和３年５月６日　場所：水窪

ヤギ！

　町内でいつもお世話になっている方がヤギを飼い始めたので早速見に行ってきました。私も少し小屋づくりを手伝ったのですが、完成した小屋は広くて丈夫で見事でした。

　ヤギはオスとメスが一頭ずつで、４月に生まれたばかりとのこと。とても可愛いです。ヤギを飼うと猿が近づかなくなるという説もあるそうなので、効果があるかどうか観察してみたいと思います。

日々の暮らし　　日時：令和３年５月10日　場所：水窪 常光寺山

常光寺山

前職で少し縁のあった方が偶然にも天竜区の近所の町に異動してきたので、一緒に水窪の常光寺山（1433m）に登ってきました。

常光寺山は、登山口まで車でアクセスできて３～４時間程度で往復できる登りやすい山です。春はツツジやヤシオの花、秋は紅葉がきれいです。

山頂から上村ルート側の登山道を少し下ったところにバイケイソウとトリカブトの群生地に囲まれた鳥居が立っている不思議な空間があります。バイケイソウとトリカブトには毒がありシカも食べないので、その２種でほとんど林床が埋め尽くされています。

バイケイソウは白い花を、トリカブトは青や紫の花を夏に咲かすので、またその時期にも登ってみたいと思います。

常光神社鳥居

バイケイソウ・トリカブト

トリカブト

日々の暮らし　　日時：令和３年５月11日　場所：水窪 夏焼

中学生と夏焼集落

中学一年生の総合学習にご一緒する形で水窪の夏焼集落に行ってきました。夏焼集落に訪れたのはこれが３回目ですが、来るたびに色んな発見があります。例として以下の３点ほど。

① 民間の近くまでは自動車道が通っていないため、ふもとから集落に線（ワイヤー）を張って荷物を上げていたそうですが、この動力はふもとに廃車同然で置かれた自動車によるものでした。急斜面の暮らしを楽にするための先人の知恵を見た気がします。

② 山間地域の山の中でよく見る炭焼き窯は、山中のくぼ地に石を円状に積んで、その中にカシなどの硬い木を隙間なく並べて、並べた木の上に直接粘土質の土を被せて圧力をかけて固めて屋根にしてあることが多いです。しかし、夏焼集落で見つけた炭焼き窯は屋根の部分に粘土を使わずトタンで覆っていました。地域の方によると、これは夏焼地区では粘土質の土があまり取れなかったためだといい、ここでも暮らしの工夫を感じました。

③ 天竜川は佐久間ダムや秋葉ダムによりせき止められ、その上流には土砂がたまることになるため、川底の砂をとるための船が多く運行しています。この水底の土砂をとって処分する作業を「浚渫（しゅんせつ）」といい、この作業をする船のことを「浚渫船」というようです。天竜川でこの船を見慣れている人にとっては常識なのかもしれないですが、少なくとも自分は初めてこの言葉を知りました。

中学生もこういった話を熱心に聞いていました。こういう「地域の暮らしを知っている」ということも、水窪の子供たちの大きなアイデンティティなのではないかな、と思います。

夏焼集落

車とワイヤー

炭焼窯跡

浚渫船

日々の暮らし　　日時：令和３年５月23日　場所：春野 田河内

田植え

　実家の田河内地区の田植えの様子です。GWから続くお茶刈りの作業もいよいよ大詰めです。先日田河内集落で撮影したお茶刈りの動画を浜松市の担当課がyoutube（ハマライフチャンネル）に掲載してくださいました。是非ご覧ください！↓
https://youtu.be/Ad8WVz2NJAQ

日々の暮らし　　日時：令和３年５月24日　場所：水窪

粟畑作業ととうきび

　つぶ食いしもとさんの粟畑の農作業に同行しました。粟の種をまいた畑に膨張テープを張ったのですが、よく見るとすでに芽が出ているものもありました。
　とうきびの種まきも体験させていただきました。とうきびと言っても、甘くはなく固い昔ながらの品種です。地域の方は「こっちのほうが今のとうきびよりも歯にはさまらなくて好き」「昔を思い出す」と話してくれました。粉にしてお菓子の材料にもするそうです。